

## 平成 26 年度第 3 回定住自立圏共生ビジョン懇談会議事録（要旨）

日時：平成 26 年 9 月 29 日（月） 15:00～16:00

場所：ロワジールホテル函館 3 階 彩雲

（15:00 開会）

### <議 事>

（南部座長） それでは議題 1 および 2 について事務局より説明願いたい。

（事務局） 資料に基づき説明

（南部座長） 各委員より意見をいただきたい。（各委員→異議無し） それでは、説明のあった内容について、共生ビジョンの成案とさせていただきたい。

（南部座長） それでは、次年度以降の取組について協議したいと思うが、手元に配付した資料には、これまでの議論の中で加えた方が良いという意見のあった内容が記載されている。7 点ほどあがっているが、さらに加えるべき事業があれば、意見をいただきたい。

（松本委員） この定住自立圏共生ビジョンは、中心市である函館がどれだけ機能を集積し地域をリードできるか、また、周辺市町はどれだけ連携しながら地域を盛り上げられるかということだと理解している。今のビジョンに関しては現状の機能を最大限に活かすという点で組み立てられており、現時点では評価している。ただ、残念なのは国の政策が縦割りで、今回は総務省の「地域」というメニューにおいて、函館を一つの圏域として活性化することにとどまったということ。実際には、私の住むせたな町でも、消防はどんどん広域化しているし、医療についても、渡島・檜山でそれぞれ 2 次医療圏が存在している。そのような中で函館圏という枠組みを作りやすいのは、3 次中核病院である市立函館病院や北海道新幹線であったのだと思うが、この 2 つについては、もっともっと機能を充実させて頂きたいと考える。例えば、周辺市町の子供達が函館の高等教育機関を目指し、地域を俯瞰する経験を身につけ、また地域へと帰ってくる、そのような機能を公立はこだて未来大学が持つようになれば素晴らしいと思う。また、観光という点においては、函館だけだと 1 泊で終わる可能性もある。広域に拡げることで周辺でも 1 泊して頂けるように我々も努力しなくてはならないと思う。公共交通に関して、路線バスは補助金で維持し続けるという政策、一方でハイヤーに関しては、地域に何台必要でいくらの料金設定、それで運営するスタイルを取っている。人口が多い時代は経営が成り立ったが、利用者が減ると影響をまともに受ける。バスは補助金なので影響は少ない。そのような制度の違いもあ

り、今後ますます厳しくなるものと考え、両者を上手に組み合わせることにより、地域の足を確保できるのではないかと。国の縦割りで上手くいっていないが、現段階で踏み込むことは難しいとしても、将来的には圏域として取り組む姿勢も必要なのではないかと。

(正田委員) 連携はしているものの、地域ごとに温度差があるのも事実。広域観光について言えば、新幹線に関して情報が欠如しており、連携する中で地域が情報を得られるような体制を望みたい。

(木村委員) 函館へのアクセス手段は3つあり、この3ルートで訪れるお客様をどうしたら巡ってもらえるようにするのか、今後の大変大きな課題であり、新幹線という新たな手段を活かすためにも、今後考えなくてはならない。

(南部座長) ただいま頂いた意見を踏まえて、次年度以降の検討課題として事務局にまとめさせることとしたい。

(南部座長) 今後のスケジュールについて、事務局から説明を求める。

(事務局) 今後のスケジュールについて説明

(南部座長) 今回が年度最後の会議でもあるので、感想を含め一言ずついただきたい。

(坂下委員) 医療分野で参加したが、ドクターヘリについても順調に推移しているし、医療情報共有化などエリアにとっての懸案も盛り込めたと考えている。また、いかに早く中心市に移動できるかという点が重要で、交通ネットワークという観点からも今後の課題だと思う。

(豊島委員) ドクターヘリと夜間急病センターが医療分野としてエントリーされているが、皆さんにもっと詳しい、現場の生の声、情報提供が出来れば良かったと反省している。

(三浦委員) 共生ビジョンは良く仕上がっていると感じている。観光では台湾人観光客が急増し、その対応も急務。東京オリンピック・パラリンピックもあり、スポーツ合宿も今後重要な課題となると思う。パブコメの中で、子供達の遊ぶ場所というのがあったが、交流人口も増やさなければならぬ一方で、定住人口に対するケアも必要だと感じた。

(正田委員) 新幹線の停車本数が地元では話題になっており、その辺を含めて情報収集・提供の役割を中心市に担って欲しい。

(本間委員) 交流人口拡大が大きな課題だが、当協会ではまだまだ準備不足の感が否めない。誘致は一生懸命するものの、実際に来たら困ってしまう、そんな現状だ。外国人だけでなく、日本人に対しても、満足度の高い観光地を目指すべく、当協会としても努力したいと考えている。また、人口減少に対する対策も今後の大きな課題、圏域として考えていく必要があるのではないかと。函館圏は広く、1年3回のこの会議でも遠方からの参加は大変だ。交通網の整備も大事。

(木村委員) 防災関係に携わってきた経験から言うと、圏域には駒ヶ岳という活火山があり、災害の際には各市町が連携して取り組む必要があり、この定住自立圏がその契機となれば良いと考えている。

(今泉委員) 個人的にはもう少し会議の回数を増やした方が良かったと思う。参加自体が大変だという話もあったが、開催方法を工夫するなどしてほしい。厚沢部町は農業の町だが、1次産品の輸出という観点も今後検討してはどうかと思う。

(松本委員) 最初の会議で言ったが、函館市内の飲食店がせたな町の産品を使う、そのような協力関係が続いていって欲しいと思う。また、函館圏という大きな括りを作ると様々な分野で多くの枠組みがあって、なかなか進まないという実情もある。

ビジョンにも記載されているが、人口減少の局面にあって、一つの市町村が持ち続けることが不可能なものがたくさんあるのではないかと感じた。例えば、学校や文化、娯楽施設など、これらをどうやって地域の人が住み続けてエンジョイできるような残し方、言ってみれば圏域内の地域、小圏域的なものが出来ないかと。

ビジョン策定の過程で、自分の市町あるいは圏域を俯瞰することが出来たのではないかと。そうすることで、一つの市町で全部の施設を持ち続けることは難しいという結論に至るのではないかと。今回のビジョンはそういう考え方にさせられるものになっていると思う。

(南部座長) 函館に来て10年になるが、今回のビジョン策定で、得がたい機会を得たと思う。大学の研究では一歩引いた立場で地域を見てきたが、今回の経験で、他人事ではなく自分のこととして地域を見ることができた。そうすると、具体的なアクションを起こしたくなり、地域を深く考えるようになった。委員から未来大学を地域の中でどのように活かしていくかという意見があったが、そういう意味において、大学の将来像についても考える良い機会となった。各委員には感謝申し上げます。議事は以上としたい。

(事務局) 企画部長より各委員にお礼の挨拶

(16:00 終了)